10月2日　マルコによる福音書14章10～25節　今日の説教から
説教題：「今日も世界中で血が流れる」

本日の説教題を見て、何かおどろおどろしいものを感じたかもしれませんが、実はこれは「聖餐式」のことを指しています。本日は世界聖餐日の礼拝です。世界のすべての国において、すべての教会において、一致して聖餐式が行われる日として定められています。その言う意味で、今日の説教題に書かれている「血」とは聖餐式で用いられるぶどう酒の事であり、今日この世界聖餐日において世界中のキリスト者たちが受け取ることになる「イエス様の血」のことを意味しています。

この聖餐の食卓が初めて行われた場面が、今日の聖書箇所には記されています。イエス様からパンとぶどう酒を受けた弟子たちは、確かにイエス様への信仰を持ち、初代の教会を支える柱となっていきました。イエス様の十字架を前にして逃げてしまうこともありましたが、その誰もが確かな信仰に支えられて、迫害を受けながらも宣教の道を歩んで行きました。ただ一人、ユダを除いて。その食卓において「取りなさい。これはわたしの体である」「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」と語り掛けるイエス様の前に、あの裏切りのユダもいたのです。

聖餐のパンとぶどう酒が私たちを特別に力づける、超常的な力を持っているのであれば、その力によってユダも清められて、パウロもトマスも、すべての弟子たちが清められて、イエス様を裏切ったりせずに十字架のその瞬間まで共にいることが出来たのではないでしょうか。ただ、実際はそうではありません。ユダは銀貨30枚でイエス様を引き渡し、後悔のあまりに自らその命を絶つことになりました。ペテロは十字架の近くまで行こうとしても、人々に疑われて「イエスなんて知らない、わたしとは関係ない」と言い切ってしまいました。

それは、弟子たちが最後の晩餐の際に受けたパンとぶどう酒は「生きているイエス様」から受けたものであり、その時点で十字架の贖いはまだ起きていない、という点に理由があります。私たちが罪から清められて、信仰を持って神様の望む歩みを踏み出すことが出来るのは、イエス様の十字架と復活が前提になっています。イエス様の言葉を聞いていてもその真意を理解できず、復活のイエス様をまだ目撃していなかった弟子たちは、その時点ではまだ確かな信仰には至ることが出来なかったのです。

今、私たちは非常に困難な状況の中を歩み続けています。新型コロナウイルスによって交わりが遠ざけられている今、聖餐式を満足に行うことが出来ない教会も多く存在しています。この災いが始まった時に、主日の礼拝を休むべきか否かという議論も、いくつもの教会でなされました。その時、聞こえてきた言葉で印象的なものがありました。「礼拝を閉じるなんて論外である。歴史的に、戦時中でもない限りそのようなことはあり得なかった」。いま、私たちを取り巻く現状は、「戦時中と同じほど」に異常な状況なのです。毎日誰かの血が流れるような、そのような異常な状況と、今私たちが直面している状況は同じ状況なのです。そしてこの世界において、確かに戦争によって、紛争によって、「礼拝や聖餐式どころではない」状況に追いやられている人々が存在するのです。

このような状況の中で、私たち江刺教会が、今日聖餐式ができることはひとえに大きな喜びであります。それと共に、今聖餐式を行うことができていない教会のために、私たちは「祈る」ことができると思います。そして、まだ聖餐を受けていない世界の多くの人々、イエス様の信仰へまだ至っていない人々のためにも、私たちは祈ることができるのです。

次のクリスマスは、次のイースターは、そして次の世界聖餐日こそは、私たちと人々との交わりを阻害するすべての災いを乗り越えて、私たちが手と手を取り合って協力することで、また世界中で今まで通りの聖餐式が行われる、そんな日が来ることでしょう。その日まで、祈りと愛に満たされた歩みを、共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：マルコによる福音書 14 章 10～25 節

- 10:十二人の一人イスカリオテのユダは、イエスを引き渡そうとして、祭司長たちのところへ出かけて行った。彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすれば折よくイエスを引き渡せるかとねらっていた。除酵祭の第一日、すなわち過越の小羊を屠る日、弟子たちがイエスに、「過越の食事をなさるのに、どこへ行って用意いたしましょうか」と言った。そこで、イエスは次のように言って、二人の弟子を使いに出された。「都へ行きなさい。すると、水がめを運んでいる男に出会う。その人について行きなさい。その人が入って行く家の主人にはこう言いなさい。『先生が、「弟子たちと一緒に過越の食事をするわたしの部屋はどこか」と言っています。』すると、席が整って用意のできた二階の広間を見せてくれるから、そこにわたしたちのために準備をしておきなさい。」弟子たちは出かけて都に行ってみると、イエスが言われたとおりだったので、過越の食事を準備した。

- 17:夕方になると、イエスは十二人と一緒にそこへ行かれた。一同が席に着いて食事をしているとき、イエスは言われた。「はっきり言っておくが、あなたがたのうちの一人で、わたしと一緒に食事をしている者が、わたしを裏切ろうとしている。」弟子たちは心を痛めて、「まさかわたしのことでは」と代わる代わる言い始めた。イエスは言われた。「十二人のうちの一人で、わたしと一緒に鉢に食べ物を浸している者がそれだ。人の子は、聖書に書いてあるとおりに、去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。生まれなかった方が、その者のためによかった。」一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきり言っておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。」